

第3回松江市総合計画審議会
会 議 録

1 日時 平成29年2月10日（金）14：00～16：00

2 場所 松江市役所 本庁西棟5階 防災センター

3 出席者

(1) 委員（五十音順）

古瀬誠会長、安部隆委員、青戸哲哉氏（安喰哲哉委員代理）、安藤只祥委員、太田達也委員、岡清二委員、春日順子委員、狩野治子委員、河原和弘委員、工藤泰子委員、桑原正樹委員、後藤皖一委員、桜井豊委員、佐藤和彦委員、瀬崎輝幸委員、竹内直喜委員、竹田尚子委員、中澤ゆかり委員、中島郁子委員、中村隆委員、野津立秋委員、原完次委員、本庄雅樹委員、松崎貴委員、箕田充志委員

(2) 事務局

松浦正敬市長、星野芳伸政策部長、田原弘経営専門監、須山敏之政策部次長（兼政策企画課長）、岡田等政策係長、大谷昌平政策統計係長、狩野勝専門企画員、大塚裕理主任、木村大介副主任、平塚稔副主任

4 議事

新松江市総合計画（案）について

5 会議経過

開会

(1) 松浦市長あいさつ

○松浦市長

今日は大変荒れ模様ですが、万障繰り合わせて、出席を賜りありがとうございます。

これまで2回のご審議をいただき、皆さまのご意見を賜りながら、今回、松江市総合計画案を作りあげたところでございます。今回は、これについてご意見を賜りたいと思っています。

今、地方創生が最大の課題です。そのため、皆さま方のお力添えにより、総合戦略を策定しました。総合戦略を実現していくうえで、市民運動として進めていかないとなかなか実現、実行が難しいと思います。

人口減少という状況が、皆さんの生活の色々なところに問題として現れています。企業においては、異口同音に人手不足と言われていますが、これも人口減少の大きな現れだと思っています。そういう意味では、人口減少問題が市民の皆さんとの共通の課題ということで一緒に取り組んでいく、そういう下地ができあがっていると思っています。そういう意味もあり、今回の総合計画は市

民目線に立ち、わかりやすく作りあげようと心がけてきたところです。

それで地方創生、総合戦略というものを次の5年間で軌道に乗せ、定着させることが大事だと思っております。三つのコンセプトを設けています。一つめは、総合戦略を下地とすること。二つめは、市民運動として実現をしていくためには、共創・協働の進め方が非常に大事であること。三つめは、これまでは10年の計画でしたが、5年間という期限で計画を達成すること。この三つのコンセプトで作りましたところ。

また、5年間でめざしますまちの将来像として「選ばれるまち」になろうということにいたしております。国内外から松江市が色々な意味で注目され、選ばれる。こういうことが、こちらに定住していただく、来ていただくための原点になると思っております。そういうふうな考え方で案を作りあげていますので、皆さま方もこれをご覧になり、お気づきの点、ご意見を忌憚のないところで賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○須山政策部次長

本日は下山委員、杉村委員、馬場委員、林委員、山本委員からご欠席の連絡を受けております。また、原委員は後ほど遅れて参加されるという連絡を受けております。

松江市総合計画条例の規定により、定足数は委員の半数以上となっておりますので、本日の審議会は成立していることをご報告させていただきます。

それでは会を始めるにあたりまして、古瀬会長より一言お願いいたします。

(2) 会長あいさつ

○古瀬会長

みなさん今日はお疲れさまでございます。3回目の総合計画審議会ということで、市長さんからお話がありましたように、法に基づいて作っています総合戦略というものがございまして、それを土台にし、それに矛盾しない形で、総合戦略に書ききれない分野、例えば、福祉などの分野を加えながら、今ご説明があったようにわかりやすく、進め方に至るまで全体像として取りまとめるための総合計画という意味で、屋上屋には決してならないように相互が関連し合いながら同時に進めていく。いずれも5ヶ年計画でございます。そういうようなご理解をお願いします。

過去2回にわたり、全員の皆さまのご意見をお聞きしたと思います。それに基づいて、事務局の方で基本理念から具体的な項目に至るまでとりまとめられ、さらにそれを数値化され、お手元の方に届けてあるのを事前にお読みになったと思います。

今日はその説明をじっくり聞かせていただいて、最終案についての皆さま方のご意見を、今日は全員という形ではなく、その都度ご意見のある方にお聞きするという形で進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞ最後までご協力をお願いいたします。

本日はお疲れさまでございます。ありがとうございます。

○須山政策部次長

ありがとうございました。それでは、これ以降の議事進行につきましては、会長にお渡しいたします。よろしくお願い申し上げます。

○古瀬会長

それでは、ここからの進行は私の方でさせていただきます。

まず、議事に入らせていただく前に、会議録署名者の確認をさせていただきたいと思います。

本日の会議の署名者につきましては、順番によりまして、太田委員と岡委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

※両委員賛同

それでは、太田委員さんと岡委員さん、よろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、議事に移らせていただきます。

新松江市総合計画（案）について、事務局から説明をお願いいたします。

(3) 新松江市総合計画（案）について

○星野政策部長

政策部長の星野でございます。今日は誠にありがとうございます。

資料のご説明に入ります前に、昨年 11 月 15 日に開催を予定しておりました第 3 回総合計画審議会を本日に延期いたしておりますことを、まずもってお詫びを申しあげます。申し訳ございませんでした。

また、第 2 回審議会以降の経過につきまして、はじめに須山次長からご報告をさせていただきたいと存じます。

○須山政策部次長

9 月に開催をさせていただきました第 2 回総合計画審議会以降の経過につきまして、ご報告をさせていただきます。

お手元の総合計画案、資料編の p80 をお願いいたします。そこに、策定への歩みということで、掲げさせていただいております。

10 月下旬に、橋南では松江テルサ、橋北では島根県民会館におきまして、新総合計画に関するタウンミーティングを開催いたしました。合わせて 66 名の市民の皆さんにご参加をいただきまして、基本施策、基本目標、将来像などについてご意見を伺いまして、たくさんの貴重な意見をいただいたところでございます。このタウンミーティングの概要につきましては、p76 に掲載しておりますので、またご確認いただきたいと思います。

そして、10 月 31 日から 11 月 11 日までの期間で基本構想の骨格案に対するパブリックコメントを実施させていただきました。ここでは、健康づくりに関すること、宍道湖北山自然公園についてご意見をいただいたところでございます。基本施策の方でご参考にさせていただくとともに、県立自然公園のことでしたので、県にもその内容について伝えたところでございます。

11 月には松江市議会の第 2 回総合計画特別委員会を開催いたしました。また、市役所内に設置しております第 3 回総合計画策定委員会を開催し、審議をいただいたところでございます。

そこでのご意見を参考にいたしまして、新総合計画の基本構想案を作成し、2 月 2 日に第 4 回策定委員会、2 月 6 日に第 3 回特別委員会にて、内容をご審議いただいたところでございます。

また、2月3日～8日まで、基本構想案につきまして2回目のパブリックコメントを実施させていただきました。

その中では、基本施策の目標指標の設定に関すること、子どもの地域活動への参加、セーフティネットへの相談体制、集落営農の早急な組織化・法人化、線引き制度の運用緩和、風土記の丘の再整備、子どもスポーツ活動、消防団の担い手確保、公営住宅や空き家の活用といった点について、ご意見をいただいたところでございます。

これにつきましても、本日お示しする基本施策の中の展開方針、主要施策の中に含まれているものがほとんどでございましたので、それについては対応ができているものと思っています。ただ一部、今後実施計画、主要施策を実際に行っていくうえでの目標数値の設定などにも参考とさせていただくような内容もございました。

今後は、2月議会に総合計画案を上程する予定になっていますので、今回の審議会ではこの計画案の最終の審議をお願いすることになるかと思っています。

続きまして、冒頭でもお話しましたが、今回お配りいたしました資料に変更点があるとお話しましたけれども、修正した箇所につきまして、担当の狩野専門企画員が説明いたします。

○狩野専門企画員

松江市政策企画課専門企画員の狩野でございます。総合計画の事前配布資料と本日差し替えでお配りさせていただいた資料との変更点につきまして、ご説明をさせていただきます。

赤い表紙の資料をご覧くださいと思います。市長メッセージのところでございますが、事前にお配りしたものは表題を「松江を超える、松江をつくる。」にしておりましたが、「選ばれるまち松江の実現」に変更しております。

それから本文中の5行目、「いわば今の松江を乗り越える」を「今の松江に自信と誇りを持っていこう」に、8行目、「業種などの枠を飛び越えて」を「業種などの枠を越えて」に、11行目、「市民みんなが日本一大好きなまちと胸を張って言える松江」を「市民みんなが日本一大好きと胸を張って言える「選ばれるまち松江」」に、それぞれ表現を修正しております。

併せて、このページの左側の資料編ですが、若干、項目の順番の入れ替えと文言修正をしております。

めくっていただきまして、基本理念のところでございます。これについて、文言は修正しておりませんが、背景の写真を差し替えております。

続きまして、p5、6でございます。将来像、こちらについては、写真を9つの地域の写真に差し替えをしております。それから「選ばれるまち松江の実現」としておりましたが、将来像ということで「の実現」を省略しております。本文中ですが、下から5行目、「人と人の温かなつながりに支えられるコミュニティ」を「松江にとって人は財産、そう“人財”なのです。そんな人と人が温かくつながり合うコミュニティ」に変更しております。なお、表題の将来像の文字が若干小さいので、もう少し大きい字に修正させていただきたいと思います。

p7、8でございます。基本目標の1でございますけれども、写真の差し替えと本文中3行目、それからp8の小さい写真が5つ載ってまして、未来を担う次世代“人財”というところで、あえて“人財”の「ざい」を人は財産だという意味を込めまして、財産の財を、造語ではございますが、

あえて使用しているという意味で、ダブルコーテーションを付けさせていただいております。

p10、基本目標 2 でございます。こちらは写真の 1 部を差し替えております。

p12、基本目標 3、こちらについても右側の写真の差し替えをしております。

p14、基本目標 4 のところも、一部写真の差し替えをしております。

p17、基本施策の見出しの写真を中海の写真に差し替えをしております。

p19、p20 の総合計画の全体像については、図のイメージを若干修正しております。

p21、p22 の基本施策 1 ですが、基本施策の中で“人財”という言葉、あえて財産の財を使用しています。なお、基本施策 2 以降のところで使用する人材につきましては、一般的に使用する材料の材の文字を使用することにいたしました。また、このページで目標指標の現状値のところ、数値が入っていない箇所がございまして、こちらについては同様の調査結果がないために、当初は数値を入れておりませんでした。何らかのスタート値が必要という判断をいたしましたことから、類似の調査等の数値を参考値としまして、現状値のところに入れております。参考値の設定の考え方につきましては、資料編の p63～p70 に掲載をしておりますので、後ほどご確認いただきたいと思います。さらに、このページの現状・ニーズでございますけれども、p22 の右側に「社会で活躍する若い世代のネットワークづくり」の 1 項目を新たに加えていただいております。これに伴いまして、施策の展開方針の 1 番下の丸、それから主要施策の右側の一番下に「若い世代のネットワークづくり」を 1 項目ずつ追加しております。

続きまして p23、基本施策 2 でございます。こちらにつきましては、目標指標の「安心して結婚・出産・子育て」の現状値に数値が入っておりませんでしたので参考値を加えております。

p26、基本施策 3 ですが、「松江暮らし相談支援センター」の写真を追加しております。

p27、基本施策 4 ですが、こちらは目標指標を 2 つ設けておりますが、これらに関する基礎データのグラフを 2 つ追加しております。

p29、基本施策 5 ですが、こちらにも現状値のところ参考値を加えております。

p32、基本施策 6 ですが、こちらには「就職ガイダンス」の写真を追加しております。

p34、基本施策 7 ですが、こちらには「木質バイオマス発電所」の写真を追加しております。

p35、基本施策 8 ですが、こちらには「玉造温泉の夏まつり」「地域おこし協力隊」の写真を追加しております。

p37、基本施策 9 ですが、こちらは現状・ニーズの小見出しについて、「観光施設の計画的改修と魅力アップ」を「多彩な資源を生かした観光地づくりと観光宿泊客の増加に向けた対応」に修正、「諸外国との交流促進によるグローバル人材の育成」という表現に「と発信」という文言を追加しております。また、「文化芸術の振興・担い手の確保」を「文化の担い手育成と新たな文化創造活動」に修正しております。また、施策の展開方針、主要施策については、全面的に文言の修正を行っております。

p41、基本施策 11 ですが、こちらにも目標指標の現状値のところ参考値を入れております。

p43、基本施策 12 ですが、こちらにも目標の現状値のところ参考値を入れております。

続きまして、別冊になっております資料編ですが、p63、資料 4 目標指標・目標値の補足説明という資料を付けておりまして、p63～70 にわたり、各目標指標の目標値の考え方などを新たに掲載しております。

なお、p65、p66 に、中海・宍道湖・大山圏域の連携推進が基本施策の一番下にございます。こちらにつきましては、中海市長会の目標値でございまして、現在は平成 31 年度が目標年度の目標値になっておりまして、その説明が不足しておりましたので、ただし書きで、平成 31 年度目標であることがわかるように追記したいと思っております。そのほか、資料表題の文言修正、掲載順番の入れ替え、文章中における若干の文言修正を行っております。

資料の変更点についてのご説明は、以上でございます。本来であれば、修正した資料を事前にお渡ししなくてはなりませんでしたが、今回多数の修正を行ったことにつきましてお詫び申し上げます。

○星野政策部長

続きまして、私の方から総合計画案につきまして、ご説明させていただきます。

大変修正点が多く、申し訳ありませんでした。

お手数ですが、本日お配りしました修正後の計画案に基づきまして、ご説明をさせていただきたいと存じます。

(資料説明)

○星野政策部長

今回の総合計画は、人口減少問題を最も大きなテーマに位置付けております。

人口減少対策は、今後何十年もの長いスパンで取り組んでいかなければなりません。しかも行政だけではなく市民運動として実践していかなければなりません。

また、市町村合併をして、市内 29 の地域が一緒になりましたが、人口問題の深刻度は地域ごとに事情があまりにも違うことがわかりました。

この総合計画では、さまざまな人口減少対策を講じていく方針を述べておりますが、それと並行して、人口問題の入り口部分について、市民の皆さまに共通認識を持っていただくため強いメッセージを加えました。市民も行政も今までの殻を破り、意識を変えて人口問題に取り組もうとする姿勢を盛り込み、子どもから高齢者に至るまで、大好きな松江に夢が描けるような基本構想にいたしましたつもりでございます。

本日は最終案ができましたので、審議会の皆さまにご報告申しあげ、意見を受け賜りたいと考えております。

それでは最終案の中身について、概要をご説明申し上げます。

まず、1 枚おはぐりいただきたいと存じます。宍道湖の夕日が見えているような写真がついております。導入部分としまして、幼い子どもを連れた若い夫婦が宍道湖の夕日を眺めながら松江への思いを語るシーンからスタートしております。これからは若い人も一緒になって、いや主役となって松江をつくっていただきたいという思いを冒頭に込めました。

1 枚おはぐりください。左側に目次をつけております。今回の総合計画は上から 01 基本構想、02 基本施策、03 資料編と大きく 3 部で構成しています。右側に市長メッセージを入れました。

1 枚おはぐりください。第 1 部の基本構想編でございます。まず基本理念でございます。基本理念は若い人を意識しながら、世代を超えた全ての人が共有できるメッセージとして、「松江を超える、

松江をつくる。」といたしました。松江市民憲章の冒頭を紹介し、みんなが松江が大好きという認識はあるものの、外に向かって積極的に発信できていないのでは。控えめな松江人気質の殻を破り、意識を変え、自信と誇りを持って外に向かって発信していこうというメッセージとして、「松江を超える、松江をつくる。」この言葉を今後5年間の基本理念にしたいと考えました。そして、特に私たちの自信と誇りの象徴である松江城の写真为背景としたところがございます。

1枚おはぐりください。次に基本姿勢としまして、「共創・協働のまちづくり」といたしました。さまざまな主体が、まちづくりについて企画段階から一緒になって知恵を出し合い、実行していくという姿勢を表しております。

1枚おはぐりください。次に将来像として、「選ばれるまち松江」といたしました。住む場所、働く場所、学ぶ場所、訪れる場所として、松江市に住む人も、外の人からも選んでいただけるようなまちを実現するものがございます。

1枚おはぐりください。「選ばれるまち松江」を実現するために、4つの基本目標と18の基本施策を設けました。

1つ目の基本目標が「人を大切に育てる」です。

1枚おはぐりください。2つ目が「個性の発揮と広域連携で輝く」です。

1枚おはぐりください。3つ目が「誇りと愛着を生む」です。

1枚おはぐりください。最後4つ目の基本目標が「安心・安全なまちづくり」です。

以上の4つの基本目標について、それぞれ松江の各地域の写真为背景として使用しております。

1枚おはぐりください。第1部の基本構想編の締めくくりとして、人口ビジョンと2つの挑戦としまして、総合戦略からの抜粋でございます。出生者数2,000人と社会増270人、この2つの挑戦を掲げております。

1枚おはぐりください。ここから基本施策編がスタートいたします。第2部でございます。

こちらでは全部で18の基本施策について、それぞれ詳細に記述いたしております。

まずこのスタートとして、中海と大山の遠景の写真を使用しました。宍道湖を加えた広域連携を印象付ける思いをこちらに込めております。

1枚おはぐりください。基本施策を説明するにあたりまして、総合計画の全体像をお示ししております。左から基本理念、さらに将来像、基本姿勢、そして、先ほどご覧いただきました4つの基本目標。そして、この基本目標に全部で18の基本施策がつながるようなイメージを全体像としてお示ししております。

1枚おはぐりください。こちらから18項目の基本施策をご紹介しますようになっております。

18の個々の基本施策の中身につきましては、今まで委員の皆さまから頂戴いたしましたご意見やアイデアを盛り込んでまいりました。それぞれの詳細につきましては、時間の都合上割愛をさせていただきたいと存じます。ただ、18項目の基本施策を作成するにあたっての考え方について、若干ご説明させていただきたいと存じます。

まず、今までの総合計画の基本施策というのは、市役所内の各々がそれぞれ単独でつくったものをまとめる形で作成してまいりました。今回の基本施策は、この縦割りを排除しまして、一つの基本施策を複数の部が連携しながらつくりました。例えば、今ご覧になっている「未来を担う次世代“人財”を育てる」のページでございますが、教育委員会、政策部、健康福祉部、市民部、これらの部が

一緒になって作りあげております。それから、従来数値化がし辛かった目標というものも可能な限り数値化するように取り組んだところでございます。例えば、アンケートなど市民の皆さまの声を聞くことを重視しまして、このアンケート結果を目標とすることといたしております。

それから、この基本施策の各ページの構成については全て統一いたしております。このページ (p21) 左側の枠がございしますが、枠の上段に基本施策のタイトルとその説明、さらに、その下に目標指標を記載しております。そして、左側下段の方から現状・ニーズを記述いたしまして、右側の中段ぐらいにこの基本施策の展開方針と、その下、右側の一番下の方ですが、主要施策を記述しております。

この主要施策につきましては、これは実施計画として位置付けるものでございまして、総合戦略ですでに予算化した事業のほか、既存の事業をこちらの方に掲載しております。ただ、この主要施策の部分というのは、今後 5 年間常にローリングしてまいりますので変化していくものであるということをご了解願いたいと存じます。

さらに、この主要施策は今後 5 年間の計画期間中、行政マネジメントシステムを活用した PDCA サイクルで回すことといたしております。その実施状況を公表したいと思っております。それによりまして、市民の皆さまとその状況を共有してまいりたいと考えているところでございます。

それから、今日お配りしました別冊、03 資料編でございしますが、先ほど説明した目標値を設定するにあたっての考え方について、p63～p70 までかなり細かく書いておりますが、それぞれ基本施策の目標値についての考え方を詳細にまとめているところでございます。そのほか、この総合計画をつくるにあたりまして、使用してきた資料、あるいは審議会委員の皆さまの名簿、策定の経過などを記載しているところでございます。簡単ですが、説明は以上です。よろしくご審議いただきたいと存じます。

(4) 審議

○古瀬会長

ありがとうございました。

訂正箇所の説明から、この総合計画の中身の説明に至りますまで、当局からご説明をいただきました。

ここから先はあらかじめ読んでいただいていると思いますので、委員の皆さま方からこの総合計画の最終案に対しましてのご意見を頂戴したいと思います。

冒頭で申しましたとおり、個々に一人ずつということはいたしませんので、どうぞお気付きの方から順次挙手のうえで、ご発言をお願いしたいと思います。

いかがでございましょうか。

○竹田委員

事前にお届けいただいた資料でメモをしてきているので、そちらを見ながら述べたいと思いますが、まず、よい写真をたくさん使われていて、ビジュアルにも凝ってつくられたんだと思い、市民が松江市を知るためにもよいと思います。

せっかくよい写真を使っているのに、キャプションを付けて、どこの何の写真なのかを示すことで、市民が松江市を知るきっかけになるのではないかと思います。例えば、あしぶえの国際演劇

祭の写真がありますが、それが何なのかはどこにも書いてありませんので、そういうのを知るきっかけにはいかがかなと思いました。

それから、「共創・協働のまちづくり」を真っ先に頭のところにに入れてもらえてよかったと思いますが、頭につけたために一つ一つの施策の中では「共創・協働のまちづくり」が見えにくくなっている部分もあります。いざ一つ一つの事業を実施していくうえで、「共創・協働のまちづくり」が消えてしまわないようにするために、何らかの表現ができないのかなと思いました。一つ一つの施策も行政だけではできないことばかりだと思います。ですので、それをすでに行っている企業だとか市民団体などの民の活動を支援する言葉をどこかに表現できないかご検討いただきたいです。あらゆるところに入ってきてよい文言ではないかなと思います。

もう一点は、何でこんなに日本一という言葉が好きなのかということを考えてしまいます。松江に住む人が松江を大好きというのはよいことですが、外から来た人も増えてきています。私も外から来ています。自分の生まれ育った故郷も大好きだけれども、第二のふるさと松江も大好きでよいし、日本一ではなく大好きなまちの一つと日本中の人が思ってくれることの方がよいのではないかなと思います。日本一がたくさん出てくるなと思ってしまいました。

○古瀬会長

ありがとうございます。最後のところは、日本一はいけないということですか。どこから来られた人にとっても、誇らしいまちにするという意味だと思います。松江で生まれた人だけがそう思うというのは、別の角度から見ておられるように思いますが。要するに、この地がどなたにとっても日本一と思える土地であるようにというもう少し大きい気持ちでこのまちを見てほしいと思います。

ちょっと前におっしゃった写真がよくわからないのではないかというご指摘で、せっかくなので説明を加えたらよいのではないかというご意見、もう一つは「共創・協働のまちづくり」というのは基本理念のところを出しておられますので、これがわからないということはないと思いますが、随所に盛り込まないとなかなか徹底できないのではないかというご意見でした。

○星野政策部長

写真はご指摘のとおりだと思いますので、できるだけわかりやすい形に工夫していきたいと思えます。

基本姿勢の「共創・協働のまちづくり」についてですが、これは一番前に持ってきて、全ての基本施策、実施計画に共通する姿勢として位置付けておりまして、総合計画の全体像としても、基本理念、将来像の次に基本姿勢として、「共創・協働のまちづくり」をお示ししています。

さらに、p30の基本施策5になりますが、「誰もが活躍できる社会の実現」において、目標指標のところ、市民も企業も事業所も「共創」に関する取り組みを何か持つことができないかというお話ですが、目標指標に「共創による事業割合」というのをあえて設けてみました。これについては非常に重たいテーマで、私どもも工夫してやっているところですが、この計画を実行していく段階で、我々行政も含め「共創・協働」の基本姿勢を常日頃から言い続けていくことが必要であり、そのことを実施してまいりたいと思っております。

○竹田委員

前の計画の時にも、「共創・協働のまちづくり」は謳ってはいましたが、各事業の実施の段階で消えたので、今回はそうじゃないということを見守っていかせていただきます。

○古瀬会長

ありがとうございました。他にありませんでしょうか。

○野津委員

医師会の野津と申します。医師会からの提案をたくさん盛り込んでいただき感謝します。総論的なところと、各論的なところについて質問させていただきます。

p43、p44 ですが、施策の展開方針。最初に城下町のうんぬんと書いてありますが、確かに松江は宍道湖があって、お城があってというイメージになるわけですが、個人的には、松江は旧八束郡と合併したわけであり、こういう書き方をされると市民感情としてあまりよく思わない人もいるのではないのでしょうか。提案としては、松江らしい魅力あるまちなみを形成し、周辺地域はうんぬんといった形の方が、共感が得られると思います。いつまでもお城と宍道湖の話ではないと思います。

それから、基本施策 14 の p47、下から 3、4 行目、一人暮らしの高齢者うんぬんを現状・ニーズで取りあげていますが、p48 の施策の展開方針にどうするのかということが出ていません。ぜひ、ご検討ください。

p48 の医療人材の育成のところですが、これは前回欠席した時に浅野副会長が言ったと報告を受けていますが、看護師の養成が取り組まれている松江総合医療専門学校うんぬんと書いてありますが、松江市医師会は 100 年の歴史を持っている看護学校があります。今まで 5 千人の看護師を輩出しているわけです。松江市から補助をいただいているわけですから、医療人材育成の中に松江市医師会の看護学校があることを記載していただきたいと思います。

それから p52 ですが、施策の展開方針の 6 つ目のところで、「国民健康保険および後期高齢者医療保険などの適正な運用を推進します。」。これは当然のことですが、現状・ニーズでこのことに触れていないので、どういうことなのかをお聞きしたいと思います。

○古瀬会長

一つめに関して、合併したのでまずは外の人にどう訴えるかということになると、住民感情としては、中心のものばかり言うあまりよい気がしないということですね。

もう一つは、一人暮らしの高齢者という文言は出てきますが、その対策というのは何にもないじゃないかということ。

それから医療人材の育成のところ、松江市医師会が看護学校を運営しておられますので、その扱いをもっと具体的に言ったらどうかということ。最後の国保の問題は、文字だけ出てきて背景があまり書いてないのではないかということですかね。

それについては当局の方から説明をよろしくお願いします。

○星野政策部長

合併した旧八束郡を含めた評価は、前ページの自然環境・歴史・文化を生かしたまちづくりの推進のところで書いているつもりです。ここでは都市デザインの推進を中心に考えているため、特に城下町にスポットをあてて記述したところでございます。

それから一人暮らしのお年寄りの対応策については、p50の基本施策15の施策の展開方針の中に盛り込んでおります。

松江市医師会の取り組みについては、記述させていただきたいと存じます。

それと国保の問題ですが、これはp52の「消費生活の安全確保の取り組み」の中にもともと記述していたものを削除した経緯があり、こちらについては再度検討したいと思います。

○古瀬会長

よろしいでしょうか。

○野津委員

松江らしい魅力あるまちづくりを形成するにあたって、周辺については前に記載があると言われましたが、松江の魅力を高めるのだから殿町だけでなくもよいだろうし、一言加えてはどうでしょうか。周辺も頑張るとか、何か書いた方がよろしいかと思えます。

○古瀬会長

後ほど検討し、個別に入れるか入れないかは議論していただきたいと思えます。

○岡委員

基本施策9、p37ですが、観光文化産業の魅力向上とインバウンド強化。

その中で目標指標の観光入込客数で、現状値が1,027万人、目標値が1,000万人、先ほどの資料の実績値を見ると1,000万人を上がったり下がったり。5年後の目標値が微減ということですが、この考え方をお聞きしたいです。

○古瀬会長

ありがとうございました。観光が重要という中で目標数値が減っているということですが、どうでしょうか。

○星野政策部長

この数値を記載する際に、世界標準、特にこのアジア圏域でインバウンド観光客がどんどん増えてきておりますが、その中で標準は何かを考えた時、各国においては、延べ宿泊者数を比較対象としています。観光入込客数は、各施設の訪問者を積みあげた数値です。松江市で観光消費を伸ばしていく中では、延べ宿泊者数が世界的な標準でございますので、むしろそちらを合わせていこうということで、観光宿泊者数は国内も外国人も含めて、延べ宿泊者数というのを今回盛り込みました。

観光入込客数は確かに大切ですが、それは現在の 1,000 万人をキープしていくことが一つポイントだと思い、あえてこの数字を記載しました。

○古瀬会長

主要施策を PDCA で回すためには、基本係数の達成具合が基になるわけなので、ある意味大事ということです。

感想を申しあげると、全体的に係数が抑制的、全てが遠慮気味に感じます。例えば、p27 の男女の地位の平等感など、国は 1 億総活躍社会を標榜して、とりわけ女性の活躍社会はどうしても大事だということで、日本全国でこぞって男女共同参画を促しています。そういう中で、意識が 5 年もかかって 13% から 30% は、国の大事な施策に対して、抑制的過ぎると思います。

p31、社会増 270 人をめざすと大きく謳っていますが、それは何かというと就職先を増やすということですよ。その中であっては、市内企業へ就職する学生の年平均は 695 人。これは今までと大して変わらないわけです。新規雇用計画数も年平均で 148 人ということで全く同じですよ。松江市の市街地店舗数も現在 407 ありますが、これから中心市街地でやっというと言っても店舗数が同じですよ。全く目標になっていないということに実はなるわけです。

本当に重要だと思っている事柄の目標は、かなり意欲的にやらなくてははいけません。PDCA で回そうとしても、反省もできなければ何もできないわけです。全部の係数を意欲的にすることは難しいですが、少なくとも目につくもの、誰が見ても大事だというものについては少し意欲的に取り組まれた方が私は計画らしいと思うのですが、たまたま同じようなことを考えていらっしゃる方があるんだなと思い、私も発言させていただきました。

○星野政策部長

今ご発言いただいたとおりの議論を私どももしてきました。その中で、やはり役人気質的なところが正直ありまして、約束した数字は絶対守らなければならないと、がちがちの議論を続けてまいりました。

会長さんがおっしゃった点につきましても、数値的にどうしても達成できないわけです。その時に、UI ターン者が 200 人いるから大丈夫だと言われますが、UI ターン者も仕事がないとダメだろうと思います。新規の企業数は、市役所がコントロールして誘致した企業数というのを掲載していますが、新規の起業など役所が関与しないけれども実際にそういうものを誘導していきながら、起業数を増やす、それに伴う雇用数を増やす、そうした目標が必要だと考えています。

社会増 270 人は大事な数字ですので、このことにつきましては、再度持ち帰り検討したいと考えています。

○古瀬会長

大事な数字だからこそ申しあげているところです。

しかも「共創」と言っておられるのに、「共創」する必要もないような、今までの実績どおりの目標だと、誰も問題意識を持たないわけです。

ここが大事だということは、意欲的に目標値を設定し、それを達成していくために何か知恵がないか試みをすべきです。行政の方から呼びかけを。場合によっては、補助をしてでも起業を促す施策が必要です。PDCAを見ながら、うまくワークしている時はよいですが、ダメだったら何をするのかを常に考えていく中で、最終目標を達成するために真に必要なもの、どうしてもやらなければならないことに対する必要なもの、大事な施策は絞られていきます。全部をやってくださいということではありません。議長が意見し恐縮ですが、数値を考えてほしいと思います。数値を直すのが難しければ、精神だけでもそのような認識を持っていただきたいと思います。

○蓑田委員

関連した質問ですが、p38で、他の圏域では観光入込客数が1市あたり200万人ずつ増えていて、松江市だけ増えていないというのに矛盾を感じます。ここら辺の整合性があるとよいかなと思いました。

○古瀬会長

数字はもう少し精査された方がよいかもしれません。

圏域の入込は、統計上難しいところがありますが、見ただけではご指摘のとおりに感じます。数字の整合性という意味で、おかしいというご指摘でした。数値の問題については、もう一度、中で議論されてはどうでしょうか。議論されたうえで、変わらないなら変わらないで仕方がないですが、精神だけはきちんと持っていただきたいと思います。

○松崎委員

今回の計画の基本姿勢として、「共創・協働」を重視して、色々な意見を吸い上げ、盛り込んでいただきありがたいと思いますが、実際実行していくうえでは、今後、実施計画を作る段階で決めるということでしょうか、わかりにくいところが少しあって、これは、市がリーダーシップ、音頭をとって一緒にやっていく計画という理解でよいのでしょうか。

そこが、数値の問題も絡んでくるのだと思いますが、市がやることに対して、市民からできてないじゃないと言われるから数字が低めになるのだとなるのもったいないなど。せっかく皆さんで協力してよいまちにしようと思っているのだったら、この計画の数値を出す段階で、ここまでできないかと、どこまで協力してもらえるかという数字を出し、できないにしても、市民みんなの問題として考え、もう少し冒険的と言うか、よい所に数値が設定できたのではないかという気がしています。

もう一つ、今回、市役所の中でも縦割りをやめ、いろいろな部署で協力して計画を立てたのは素晴らしいことだと思いますが、逆に言うと、市民と一緒にやりたい時に誰に相談すればよいのか。p60にも情報共有と書いてありますが、この計画を実施するうえで誰に情報を流して、誰から情報もらうのかをうまく見せていかないと一緒にやれないと思います。そういうのは今回の計画で入ることではないと思いますが、今後の進め方についてお聞かせいただきたいと思います。

○古瀬会長

計画の実行段階について、市が発信し、市民が受け取る。「共創」ですから、それぞれのコミュニティがあったり、あるいは経済団体であったり、色々な所が受け止めながら一緒になってやっていこうということですよ。その点についてお聞かせ願いたいと思います。

○星野政策部長

これは市が音頭をとっていきべき事柄だと思っています。すでに市民に皆さんや企業の皆さんがやっていたことは連携して取り組んでいきたいと思っています。

今、松江市に29の公民館がありますが、市役所の各部長が各地区で地域版の総合戦略をつくりましょうということで、各公民館を回っています。その地域ごとで、一つでも二つでも、何かまちが元気になる取り組みをやっていこうということで、複数の部長が一緒になって回る取り組みをスタートさせています。今後、1年間に複数回取り組みたいと思っています。その中で、総合計画の考え方を皆さん方にお話をさせていただき、市役所が地域に出かけていくことを基本として、実施計画を展開できればというふうに思っています。

○古瀬会長

基本的には市がリーダーシップをとるんですが、行政サイドだけでは縦割りになってしまいますから、市民やさまざまな団体や企業と一緒に「共創・協働」により進めるというイメージだと思います。それが「共創」の基本理念であると思います。「共創」だから適当に出てきたものを次々一緒になってやるのではなく、誰かが責任をもって、結果を監理してやっていく必要があります。そういう意味では行政が主体的に監理してやっていく必要があると思います。

○松崎委員

自治会以外の団体の場合、窓口はどこだと考えればいいのでしょうか。どこに行っても話は通じますといった形を整えていただけると理解してよろしいでしょうか。いくつかの部署が一緒になって計画を立てられたとのことですが、どこの部署が窓口になるのでしょうか。

○星野政策部長

去年の7月に、地方創生の推進本部を政策部の中に設けました。これは、まさに地方創生の取り組みでございます。これは私どもが窓口となり、必要な部署と一緒に取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

○古瀬会長

今のご指摘は、非常に大切なご指摘だと思います。窓口は一つであると。それは政策部がおやりになるということです。他にございますか。

○原委員

資料編、p71ですが、住宅マスタープランがこの部分だけ半角になっています。p70の目標値、右

側の考え方のところも、数値の全角・半角が混在しているところがありますので、修正いただきたいと思います。

p22 の右側、施策の展開方針の 5 番目に、突然「子育て中における」という言葉が出てきます。この部分はどちらかというところ「子育て環境日本一」のところに出てきてもよいのかなと思います。ここでは全世代におけるという表現が適当で、言葉としておかしいのではないのでしょうか。

○須山政策部次長

申し訳ございません。文字の体裁は、全て修正いたします。

メディアについて、学校を中心に動いているということで書いています。それを乳幼児期からの連綿と続く、そういったことが必要だという意味でここに書いています。言葉としては唐突かもしれませんが、子育ての時から連続してということがわかるように修正したいと思います。

○春日委員

p50、主要施策としては、障がいのある人が地域住民と共生して、住み慣れた地域でとか、地域包括という言葉が出ています。それで、上から 4 行目です。在宅医療の提供がどうしても不可欠になりますということで、医師会、歯科医師会が書いてあり、その次に看護協会松江支部とありますが、どちらかというところ訪問看護という言葉を入れていただいた方が適切じゃないかなというふうに思いますので、ご検討お願いしたいと思います。在宅医療を支えるのは、訪問看護ステーションですので、看護協会松江支部ではなく訪問看護ステーションを書いていただきたいと思います。

○星野政策部長

訂正させていただきたいと思います。ありがとうございました。

○桑原委員

p34、左側の欄の 5 行目に、水産分野では、水産資源の減少等で資源管理…とありますが、資源管理型や漁場環境づくりはもちろん大切ですが、魚種については放流していかないと守れないもの、例えば、ウナギなどは遠くの南の海の方で生まれますから、その地域だけでは育てることができません。放流も資源管理型や漁場環境づくり同じように重要だと思いますので、施策の展開方針にも放流とあったほうがよいと思います。

ウナギを増やそうと思っても、そういう技術もなく、よそから持ってこざるを得ないので、放流も同じように重要だと思いました。

○星野政策部長

確かにそのとおりだと思います。施策の展開方針の中に付け加えたいと思います。

○桑原委員

もう一点よろしいですか。p44 ですが、水辺の利活用についての記述があります。

利用・活用する前段として、豊かな生物、生態系の保全がないと利活用も生まれてこないと思うので、保全をするという取り組みがあるとよいと思いました。

○古瀬会長

有効に利活用するためには環境保全が必要というご指摘をいただきました。それを分かるように記載してはどうかというご指摘でした。

○星野政策部長

ご指摘は p43 の水辺空間づくりに環境の保全ということを記述すべきではないかという意見でしたが、p41 の「世界に誇る環境主都まつえ」の実現のところで、宍道湖・中海を含めた水質保全を述べておりますので、ここで述べさせていただければと考えています。

○古瀬会長

p41 の前段のところで環境の大切さについての記述があり、ここでわかるのではないのでしょうか。

○桑原委員

生物、生態系の保全よりも利用の方に重きが置かれているように思ったので意見しました。

○古瀬会長

p41 に書かれていることでは不十分でしょうか。

文章の脈絡の面から検討してほしいと思います。環境については重要に扱っているという印象を受けますが、色々なところに入れますと文章の脈絡がわかりにくくなりますから。ここでは空間をどう作っていくか、大橋川をどういうふうに活用していくかという視点で書かれています。

環境は環境でもとより大事で、p41 にラムサールから触れられていますから、環境が大事ということはもう少し前の大きい括りできちんと捉えておりますので、また当局でご意見を尊重させていただき、検討して、善処願いたいと思います。

○松崎委員

p45 の右側で COC+事業について取りあげていただいています。恐らくまだ馴染みがない言葉だと思いますので、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業といった日本語の注釈の説明を加えてほしいと思います。

○星野政策部長

承知しました。

○河原委員

p38の施策の展開方針で、冒頭でもありましたが文面をかなり変えられたということで、わかりやすくなっていると思いますが、その意味と、「バリアフリー観光を推進し・・・」という項目を削っていらっしゃると思います。インバウンドも重要ですが、観光産業の中では、小さな子どもから高齢者まで観光できるためにはバリアフリーは重要な視点であると思います。そこをお話しただければと思います。

○星野政策部長

バリアフリー観光は非常に大切なポイントだと思います。こちらについては、再度検討させていただきたいと思います。

○古瀬会長

検討し、どこかへ加えることで理解してほしいと思います。

○工藤委員

p38、インバウンドのところグローバルな人材育成というところがありますが、語学力に関することが何も書かれていないと思ったところです。次世代“人財”のところでも、国際的な感覚のことは書かれていますが、語学力に関することが抜けているのではないかと思います。同時に、インバウンドで言いますと、観光客の数は書かれていますが、人材を育てるということを重視するのであれば、中にいる人間でガイドのできる人をどれくらいにするとか、そういった視点が必要ではないかと感じました。

○古瀬会長

英語の教育の問題というよりは、英語のボランティアガイドをどうしていくのかになるのでしょうか。教育はまた別個の問題だと思いますので。

○星野政策部長

グローバル人材と包含した表現としてしまいましたが、工藤委員のご指摘と気持ちは一緒です。これからインバウンドを進めていかななくてはいけない。その時にランドオペレーターのような方、語学力が備わった方を育成していかないといけないと思っております。そうしなければ外国人をお招きすることはなかなかできないと思っております。その辺りの表現を工夫させてください。

○古瀬会長

昨日参加した松江市立女子高の魅力化プロジェクトの会議でも議論にあがっていました。英語教育が随分変わってきて、TOEICを入試に取り入れようなどの動きがあります。そういうのは市立高校だとかなりフレキシブルにできますので、県立高校ではなかなか難しいと思いますが、そういうものを中心にやったらどうかというお話でした。

もう一つは、ガイドなどはもう少し広い地域で、中海・宍道湖・大山圏域 DMO など市長会でおつくりいただく方向です。DMO の中でどうやって受け入れ体制を整えていくのか、それはそれでまた別のところで戦略を練っていくと。ここでは大掛かりなグローバルな人材を育てないといけませんねという問題提起が必要かもしれません。具体策までは、松江市だけで全てを整えることはなかなか難しいわけで、こういう方針があれば色々なところが助け合っていくということで大きな方向性を示すことが必要だということです。おっしゃることはよくわかりますので、工夫して表現を考えていただきたいと思います。

他にございませんか。

※なし

大分活発に議論していただきました。よろしゅうございますか。

それでは、これで意見を受け承ることを終えたいと思います。

非常に貴重な意見を多数寄せていただきました。事務局にも非常に精力的にまとめていただきまして、私が読んだ限りでは全体的によくできていると思います。

色々出た議論の中で、新たな工夫、表現方法を取り入れていただき、可能なものについては改め、訂正し、委員の皆さんに周知するという形で取りまとめていただきたいと思います。

審議会はこれで完結し、あとは大変恐縮ですが、私にご一任いただき、直すべきところは直して事務局と最終調整を行ったうえで、市長さんへ後日答申する段取りになると思います。今、事務局の方で2月14日火曜日に市長さんのご予定をとっていただいているようでございますので、私が出席をして、先ほどいただきましたご意見が取り入れられているかどうかを確認しまして、市長さんに答申したいと思いますので、ご一任いただければ幸いです。もしよろしければ、拍手を持ってご一任いただきたいと思います。

※全員拍手

ありがとうございます。それでは、私が責任を持って、ご意見のあった箇所を修正し、確認をいたしまして、市長さんに答申したいと思います。

それでは、以上で私の役割は終わりますので、事務局から今後についてお願いします。

○須山政策部次長

貴重なご意見をいただきまして大変ありがとうございました。

今後、修正等の作業にかかってまいりたいと思います。

先ほど古瀬会長からもありましたが、来週2月14日、市長へ答申をいただく予定となっております。その後、再来週からはじまります2月議会へ本計画案を上程する予定となっております。

この議会におきまして、議決が得られましたならば、計画書として製本いたしまして、委員の皆さま方に送付させていただきたいと思っております。

それでは、本日は大変ありがとうございました。古瀬会長から最後に一言お願いいたします。

○古瀬会長

ありがとうございました。3回にわたり貴重なご意見をたくさんいただきました。おかげさまで、この原案をまとめきることができました。感謝申し上げます。ありがとうございました。

○須山政策部次長

古瀬会長、円滑な議事進行、本当にありがとうございました。

それでは、最後に松江市長が委員の皆さんにお礼のごあいさつをさせていただきます。

○松浦市長

皆さま方にはこれまで3回にわたり、大変活発な議論をいただき、まとめていただきましたことに感謝申しあげたいと思います。

今日は色々、目標数値でありますとか、共創の問題についてお話が出ました。大変悩ましい問題でして、今までの総合計画はどちらかという行政が全てやるという責任感のもとで目標数値を設定し、数値が保守的になっていたことがあると思います。今回打ち出しました共創の考え方というのは、ほかの総合計画にはあまりない取り組みではないかと思っております。

先ほどもお話がございましたように、ここに書いていることしかやらないのではなく、ここに書いてあることもかなり幅のある話ですので、民間の皆さんがこうやったらよいなどご相談をいただきながら、事業を進めていくこともこれから色々出てくると思います。そういう形で、市民運動として幅が広がるのは望ましいことであると思えますし、そうあってほしいなと思っております。

我々も大変至らないところもあるわけですが、今後、これを実行するうえにおきまして、皆さま方からいただきましたご意見を加えまして、目標数値に向かって努力をしていく。そして、これは行政だけでなく、市民の皆さんと一緒に努力していく。そういう形で総合計画の運用を進めていきたいと思っております。

冒頭にもありましたとおり、松江市が大好きというのが一番の原点と思っておりますので、この大好きな松江をどういうふうな形でよくしていくかということで、これからも皆さま方のご支援をよろしくお願い申しあげたいと思います。

重ねまして、これまでの皆さま方の色々な形でのご参加、ご支援ありがとうございました。これからはぜひ、よろしくお願い申しあげたいと思います。ありがとうございました。

閉会

○須山政策部次長

これもちまして、第3回の松江総合計画審議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。